

十国峠と丹那盆地の自然資源

1. 目指すべき景観像

伊豆半島の雄大な景色を眺める 十国峠 ありのままの自然の原風景が広がる 丹那盆地



① 多彩な眺望や自然資源に触れる十国峠



② 自然や農が広がる丹那盆地

2. 地域特性と景観形成の方向性

十国峠と丹那盆地の自然資源は、「多彩な眺望や自然資源に触れる十国峠」と「自然や農が広がる丹那盆地」の2つの側面があるため、それぞれについて地域特性及び景観づくりを進める方向性を整理します。

① 多彩な眺望や自然文化に触れる十国峠

(1) 眺望・自然



富士山、駿河湾等を一望する伊豆半島随一の眺望点

「十国峠」という地名の由来は、旧国名で十国五島を一度に俯瞰できることからついたといわれ、晴れた日には富士山や南アルプス、駿河湾、三浦半島まで見渡すことができます。

山頂や山肌には、春夏にはつつじやアジサイ、秋にはリンドウ、センブリなどが咲き、四季折々の多彩な花々を楽しむことができます。こうした花々は、地域住民や事業者の手によって手入れがなされていますが、今後も継続的な取り組みを行っていく必要があります。

(2) 十国峠レストハウス・ケーブルカー



来訪者を山頂へ導く結節点

十国峠には、県道 20 号線に接して駐車場、レストハウス、山頂に広場等が整備されており、山肌にはケーブルカーが運行しています。レストハウス、売店等は山麓のみのため、山頂で来訪者への飲食や物販の提供があると、よりゆっくりと眺望を楽しむことができると考えられます。

(3) 散策路



自然や歴史文化、ペットとのふれあいを楽しむ散策路

十国峠山頂には、小型犬用のドッグランが整備され、ペット連れ客も多く訪れています。また、山頂から東側には歩道が整備されており、道端の花々や自然を眺めながらハイキングを楽しむことができます。さらに、山頂には、鎌倉幕府将軍・源実朝の歌碑や、かつて航空灯台が立地していた記念碑などが設置されており、峠の歴史を感じさせるものとなっています。

こうした眺望以外の資源についても、周知・案内をしていくなど、魅力の掘り起しが求められます。

〈景観形成の主な課題〉

- ・眺望景観や自然植生の継続的な保全
- ・歴史文化資源等の認知度の不足
- ・ケーブルカー、レストハウス、広告物等の景観への配慮が不足

② 自然や農が広がる丹那盆地

(1) 地域資源



函南を代表する農と自然

丹那盆地には、国の天然記念物に指定された「丹那断層」、酪農の体験や食事が楽しめる観光牧場「酪農王国オラッチェ」など、様々な自然や農に触れる場があります。

このような魅力的な資源は函南町内に点在していますが、それらを連携させた一体的な取り組みは不十分な状況にあります。ひとつひとつの拠点の魅力を発信し、近隣の資源にも来訪者を導く観光ルートの設定や情報提供の体制を構築する必要があります。

また、平成 29 年 5 月に、オープンを予定する道の駅を情報発信の拠点として活用していきます。

(2) 道路



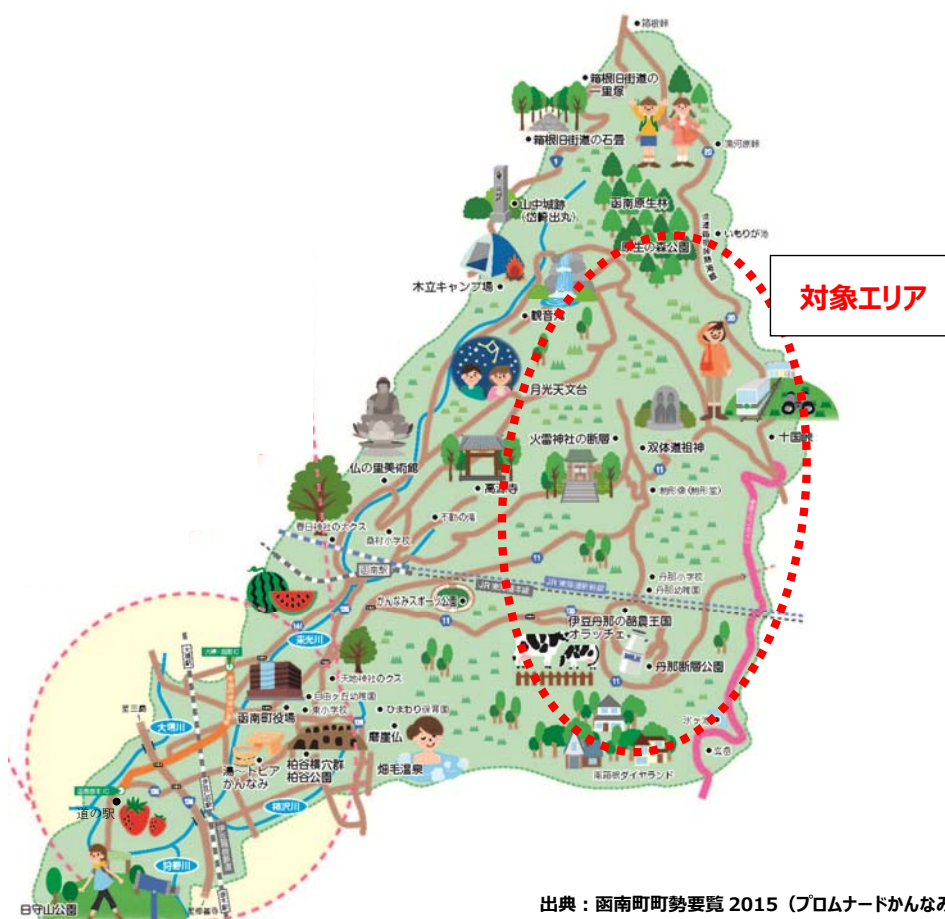
函南の資源をつなぐアクセス道路

函南を縦断する幹線道路として、伊豆スカイラインが走っているほか、地域住民の日常生活には県道 11 号線が活用されています。函南の地域資源をめぐめるためには、こうした道路の一層の整備も必要となります。

沿道では樹木が伸びている場所や、鬱蒼としている場所もあり、山間部の快適なドライブを楽しむためにこうした沿道の手入れも求められます。また、箱根、熱海方面からは道がわかりにくい箇所もあり、効果的な案内看板の整備や、不要な看板の集約、広告物のルール周知が必要です。近年では、バイクや自転車で山道を楽しむ来訪者も増えており、自動車との棲み分けや安全策も検討していく必要があります。

〈景観形成の主な課題〉

- ・函南に点在する資源の認知度、情報提供の体制の不足
- ・来訪者に対する案内周知、沿道景観の向上が必要



地域特性や景観づくりの方向性から、改めて目指すべき景観像と景観目標を整理します。

伊豆半島の雄大な景色を眺める 十国峠 ありのままの自然の原風景が広がる 丹那盆地

目標1

十国峠の雄大な
眺望と自然を
楽しむ景観づくり



目標2

丹那盆地を彩る
地域資源を結ぶ
景観づくり



景観づくり方針

- ① 多彩な眺望を楽しむことができる峠の場づくり
- ② 自然の植生や歴史文化に触れながらのびのびと散策できる路づくり

景観づくり方針

- ① 昔ながらの自然が育む丹那の拠点づくり
- ② 函南の見どころをつなぐ沿道景観づくり

対象エリアへの入口・アクセス部における景観形成

目標1 十国峠の雄大な眺望と自然を楽しむ景観づくり

方針1-① 多彩な眺望を楽しむことができる峠の場づくり

	取組み	実施主体
短期	<ul style="list-style-type: none"> ● ツツジ、アジサイ等の自然植生の手入れ ● 峠からの眺望景観の維持・保全 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業者 ● 事業者、町
中・長期	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然植生、歴史文化等の資源に関する周知・案内 ● ケーブルカー、山肌を望む眺望景観の配慮（麓からの眺望） ● 多様な来訪者の利用に配慮した情報提供、施設の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町、事業者 ● 事業者 ● 事業者

方針1-② 自然の植生や歴史文化に触れながらのびのびと散策できる路づくり

	取組み	実施主体
短期	<ul style="list-style-type: none"> ● 大規模な広告物、のぼり旗等の見直し、集約、撤去等 ● 眺望以外の資源に関する情報提供の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業者 ● 町
中・長期	<ul style="list-style-type: none"> ● レストハウス、ケーブルカー等の修繕、色彩等の修景 ● 登り口周辺、アクセス道路沿道、山頂広場における眺望の保全 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業者 ● 事業者

目標2 丹那盆地を彩る地域資源を結ぶ景観づくり

方針2-① 昔ながらの自然が育む丹那の拠点づくり

	取組み	実施主体
短期	<ul style="list-style-type: none"> ● 函南町の観光資源、地域景観資源の周知 ● 町が管理する資源、施設の舗装等の基盤整備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町 ● 町
中・長期	<ul style="list-style-type: none"> ● 道の駅等の新規拠点との連携、情報提供 ● 観光事業者等の相互連携体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町、事業者 ● 事業者

方針2-② 函南の見どころをつなぐ沿道景観づくり

	取組み	実施主体
短期	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路沿道の景観の維持・保全 ● アクセス道路沿道の案内看板の整理、集約 ● 自動車、バイク、自転車等交通手段のニーズに応じた経路情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町 ● 事業者、町 ● 町
中・長期	<ul style="list-style-type: none"> ● 案内看板の掲出ルールの方策 ● 交通手段に応じた交通のすみ分け、交通ルールの策定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町、事業者 ● 町

対象エリアの入口・アクセス部における景観形成

当該エリアの入口、あるいはアクセス道路となる箇所（区間）で実施する景観形成を以下に示します。

	取組み	実施主体
短期	<ul style="list-style-type: none"> ● 違反屋外広告物に対する是正措置 （熱函道路旧料金所周辺、平井交差点周辺） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町、県土木事務所

全体

- ・町の観光資源、地域景観資源の周知
- ・町が管理する資源、施設の基盤整備
- ・自然植生、歴史文化等の資源に関する周知・案内
- ・多様な来訪者の利用に配慮した情報提供、施設の整備
- ・道の駅等との連携、情報提供
- ・観光事業者等の相互連携体制の構築

凡例 紫字：短期的な取組み
 緑字：中・長期的な取組み



道路沿道の景観の維持・保全
 道路沿道の案内看板の整理、集約
 交通手段のニーズに応じた経路情報の提供
 案内看板の掲出ルールの方策
 交通手段に応じたすみ分け、ルールの方策

違反広告物に対する是正措置

酪農王国
 オラツェ

原生林

眺望景観の維持・保全

自然植生の手入れ
 眺望以外の資源に関する
 情報提供の充実
 峠からの景観の維持・保全

ケーブルカー、山肌を望む眺望景観の配慮
 登り口周辺、山頂広場等の眺望の保全

大規模な広告物、のぼり旗等の見直し、
 集約、撤去等
 レストハウス等の修繕、色彩等の修景

広告物、のぼり旗の集約、撤去

